

## 令和元年第1回石狩市下水道事業運営委員会会議録

開催日時 : 令和元年11月18日(月)15:30~

開催場所 : 石狩市役所 本庁舎 第1委員会室

出席者 : 小笠原副会長、堂柿委員、小西委員、鎌田委員、長委員、玄野委員、松原委員、赤間委員、塚野委員

欠席者 : 余湖会長

説明委員等 : 清野水道担当部長、青木下水道課長、岡主幹、櫻井主査、池端主査、谷内田主査

傍聴者 : 坂本 健次郎

【15時30分 開会】

◆ 青木課長より挨拶。

◆ これより議事の進行は、小笠原副会長が行う(余湖会長欠席のため)。

◆ 「第2期石狩市下水道ビジョン」について、櫻井主査より説明。

●長委員 : スtockマネジメント計画とはどのようなものですか。

●櫻井主査 : 下水道施設全体を一体的に管理して、計画的な点検調査や修繕・改築を行うことで持続的な下水道機能の確保とライフサイクルコストの低減を図ることを目的としたものとなります。

●青木課長 : 耐用年数の時期がきて悪くなってから修繕なり改築を行うと時期(年)によって費用の増減が起こるので、一体的に全体の施設を把握し費用の平準化を図りながら効率良く直していくという考え方になります。

●長委員 : 施策5の「施設の効率的な改築・更新」に長寿命化計画というものがあり、次にStockマネジメント計画というものがあるのですが、今の話を聞けばほぼ同じだと感じます。

●青木課長 : 国の要請がもともと長寿命化計画の策定だったのですが、Stockマネジメント計画に表現が変わったという経緯がありまして、同様と考えていただいて結構だと思います。

●小笠原副会長 : BCPはあまり一般化された言葉ではないと思います。日本語で書く、あるいは注釈を入れる等しないと分かりません。

●清野部長 : 今後パブリックコメントを実施する際には用語集を付す等分かりやすいように対応を考えたいと思います。

●小笠原副会長 : 1ページ目に「石狩市の下水道は課題に対して前進していると考えられます」と書いていますが、下の2行には「これからの10年は、社会情勢の変化と現状を踏まえた課題に対してさらに前進するため」とあり、意味がよく分かりません。

●鎌田委員 : 「検討」という言葉が非常に多い。検討した後はどうするのかということが全く感じられないと思いました。

●清野部長 : 課題・検討・施策内容が漠然としているという点を修正したいと思います。

- 玄野委員 : 不明水対策というのは2029年度までなのか、またはその後もさらに続くということですか。
- 青木課長 : 不明水に関しては様々な要因があり、長期的な時間を要すると思います。バイパス工事やポンプ場の能力アップ等、なんらかのハード的な対策の実施やその効果等、今後も検討しなければならないと思っています。
- 小笠原副会長 : 「ストックマネジメント計画を踏まえ、耐震診断や汚水中継ポンプ場の減災対策に基づく優先順位」とありますが、まずストックマネジメント計画なるものがあって、その下に減災対策がぶら下がっているのですか。
- 青木課長 : 現実的にはストックマネジメント計画の対象となるものはストックマネジメント計画で対応し、ストックマネジメント計画の対象とはならないが耐震化等が必要なものは減災対策で進めることとなります。並列で動くような考え方にはなりますが、表現についてはもう少し考えさせていただきます。
- 小笠原副会長 : 財源的にそうなっているのですか。
- 青木課長 : そうです。
- 小笠原副会長 : 1ページ目に下水道普及率というのがありますが、2018年の下水道普及率が92.0%になっていますが、この資料編14ページだと93.4%になっています。数字が違っていますがどちらが正しいのでしょうか。
- 青木課長 : 分かりやすい表現に修正します。
- 小笠原副会長 : 創成川の水質はどれくらいですか。
- 青木課長 : はっきりとしたデータはありませんが、茨戸川の水質は河川管理者と下水道管理者で協力しあって水質改善をするよう今まで動いてきています。石狩市で関係することでは茨戸水再生プラザの処理水を出来るだけ高度処理して良い放流水質にするということです。本流から水を引き込んだり札幌市の別の河川から浄水したりと、茨戸川の水量を確保して水質改善を進めているところです。
- 小笠原副会長 : 水質向上に向けた協議とありますが、茨戸川の清流ルネッサンスでは水質の向上とされているのですか？水質の改善と言っていないませんか？
- 清野部長 : 整合を図りたいと思います。
- 小笠原副会長 : 下水道の広域化と施設の共同化というところで、下水道の広域化とはどういうことですか。
- 青木課長 : 札幌市への汚水処理・汚泥処理の事務委託を行っており、そういう部分では広域化が図られていると考えられます。
- 長委員 : 水質の改善・向上とは、よそからきれいな水を引っ張ってきて薄めて、水質を向上した、あるいは改善したというように聞こえましたが、そういうことでいいのでしょうか。
- 青木課長 : 川の中に微生物が生息していることで、一定程度浄化する能力が発揮されますが、それは水の流れがあって、空気も供給されるような環境下でなければ微生物もきれいに働いて

くれません。茨戸川は川の容積に対して入ってくる水の量が少なく、川自体に水の流れがあまり発生しません。となると微生物も活発に働いてくれず、自浄効果が弱くなってしまいうので、増水することで流れを生もうという考え方です。

- 鎌田委員 : 札幌市に対する負担金の関係ですが、維持管理負担の推移ということで五ヶ年の平均値が出ていますが、負担金自体が年々下がっています。下がっている理由は何ですか。
- 青木課長 : 基本的には下水道計画に基づいて、処理水量に応じて維持管理費を負担するという考え方があり、石狩市の下水道の計画水量を人口減に応じて見直したり、札幌市の計画を見直したりしたことに伴って、維持管理負担金下がってきているということはありません。
- 鎌田委員 : 人口が減少することが負担金の減につながっているということですか。
- 青木課長 : はい。それと札幌市との相対的な割合の比率次第で維持管理の負担金も変動します。

◆小笠原副会長より審議が全て終了した旨報告。

- 清野部長 : 今日頂いた意見を踏まえ、事務局で精査・修正したものを会長及び副会長に確認してもらった内容でパブリックコメントを実施したいと思っております。次回はその結果も踏まえ、再度ご審議いただきたいと考えていますが、よろしいでしょうか。
- 委員各位 : 了承。

◆清野部長より、今後予定している運営委員会について連絡。

【16時30分 閉会】

令和 1 年 12 月 24 日会議録確定

石狩市下水道事業運営委員会

副 会 長



